

根木内歴史公園 観察会

2017年2月13日(月)

参加5名 西澤

空気は相変わらず冷たい朝だが空は真っ青、風はさほど強くない。ミクリ・キショウブなどはすっかり枯れ、水面を覆っている。立ち枯れ状態のヨシ原の向こうからさかんにムクドリの声が聞こえてくる。園路下の山側湿地の通路には、ムラサキケマン、ハコベ、タネツケバナ、セリ、ヘビイチゴなどが見られる。ムラサキケマンは以前より増えているようで、春が楽しみだ。

湿地のシンボルのようなコナラの幹にジョロウグモの卵をみつける。ピーンと張った糸も残っていた。(これを張った親はもういないのだろう)じっくり観ていたら、幹の割れ目にヨコヅナサシガメの幼虫がびっしりと固まっているのが見つかった。ちなみに、この虫は90年代頃から関東地域でも見られるようになった外来種で、刺されると大変痛いそうだ。しばらくするとモズがやってきてコナラの枝にとまった。国道側のハンノキにシジュウカラ、エナガ、メジロなどが飛んできた。

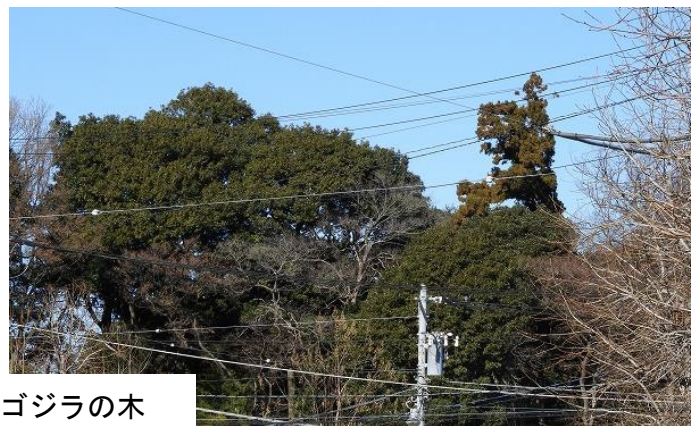
山側通路を進んでいくと木の間からガサガサと音が。見るとキジバトが斜面の枯葉の上でズルズルとすべっていた。そしてその上方にアトリが10羽ほど地面をつついて。今シーズン松戸ではアトリをたくさん見かけるが根木内公園にも来ていた。

芝生広場では満開の梅にメジロ、エナガ、シジュウカラが戯れている。やぶの中からはウグイスそしてコゲラの声、シロハラもやぶに飛び込んだ。高い木の上の方にヤマガラが何かを啜って止まっている。メジロはキリの高い枝にもやってきて実をつついたり、ホバリングをしたり、青い空に映えてとてもきれいでつい見とれてしまう。

西側の灌木にジョウビタキらしき鳥があらわれた。よくよく見るとシッポが青っぽい。どうやらルリビタキの早らしい。やぶの中に消えたり、枝にとまったりとあたりをチョコチョコして楽しませてくれた。ずいぶん以前に同じ場所にみが見れたことがあったが、今回はメス。根木内公園を忘れずにやって来てくれたことにちょっと感激。



モズ ゴジラの木
アトリ ルリビタキ





ロウバイにカマキリの卵(左)



ヨコズナサシガメの幼虫が
びっしりと固まっている
刺されると大変痛い